

## 01 自律：自分で考え、自分で決めて、自分で動き出す力

- ①子ども一人ひとりの学習の進度や興味・関心の度合い、発達の段階等に応じ、  
自分に合う学び方やペースを選択できる取組を推進します！
- #個別最適な学び #協働的な学び #メタ認知 #接続期プログラム「えがおわくわく」
- ②1人1人端末を、学びを変えるアイテムとして、子どもたちが主体的に活用する実践を積み上げます！
- #デジタルAIドリル #1人1人端末持ち帰り #学習履歴(ログ) #デジタル教科書
- ③主体的な学びを支える教材やカリキュラム等、好事例のデータベース化・ネットワーク化を推進します！
- #佐賀市共有フォルダ #佐賀市教育研究所 #四次元ポケット #業務改善
- ④ペーパーテストでは測ることが難しい新しい時代に求められる資質・能力に関する子どもの伸びや変化について、検証します！
- #全国学力・学習状況調査(質問調査)

## 02 尊重：対立やジレンマを乗り越え、合意形成する力 (自由の相互承認)

- ⑤問題や失敗をよい経験とし、成長につなげるチャンスとして、対話によって最上位目標で合意し、乗り越えていく力(対話のスキル)の習得を推進します！
- #ソーシャルスキル #セルフコントロール #アサーショントレーニング #アンガーマネジメント  
#ルールメイキング #生徒会リーダー研修会
- ⑥活動自体が目的ではなく、自分たちで作り上げていく意義を実感できる教育活動を推進します！
- #出番・役割・承認のスパイラル #生徒会パワーアップ・プラン #いじめ0のやくそく/いじめゼロ宣言
- ⑦交流学級、通級による指導、特別支援学級といった、連続性のある多様な学びの場を一層充実します！
- #インクルーシブ教育システム #合理的配慮の提供 #包括的支援プログラム  
#医療的ケア児支援 #発達障がい児相談室 #特別支援学級支援員 #学校生活支援員  
#特別支援教育コーディネーター研修会
- ⑧子どもの「社会的自立」を第一に考えた、多様な教育の機会や学びの環境を提供し、支援します！
- #Web-QU #サポート相談員 #別室対応支援員 #ICT学習支援 #SC-SSW  
#教育支援センター #学校問題解決サポート #日本語指導

## 03 創造：新しい価値を生み出す力

- ⑨子どもたちが、学校や家庭だけでなく社会全体とつながり、学びを広げられる環境の充実を図ります！
- #佐賀市電子図書館 #地域連携/企業連携/大学連携/市役所連携/ #ふるさと学習  
#SDGs #プログラミング学習 #コミュニティ・スクール
- ⑩主体性や当事者意識を育むために、正解のない問いに挑み、新たな価値を生み出す学びを推進します！
- #PBL(課題解決型学習) #デジタルシティズンシップ #ロジカル・シンキング  
#クリティカル・シンキング #ALTの活用 #オンライン英会話 #国際交流活動

<参考資料>  
●「教育振興基本計画（リーフレット）」《文部科学省》  
●「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」《中央教育審議会》  
●「OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030」《OECD》

# 子どものwell-beingの実現

～“私” “あなた” “今” “未来” 自分らしく輝く～

(注)well-being “身体的・精神的・社会的に良い状態にある”こと。“生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福”や“個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態である”こと。

変化が激しく、先行きが不透明で、将来の予測が困難な時代の中で、これまでも増して、教育の果たす役割は大きくなっています。  
一人ひとりの豊かで幸せな人生と社会の持続的な発展を実現するために、教育の在り方を問い直すことが必要です。

それは、ほんとうに「子どものため」？

子どもたちが困らないように、1から10まですべてを丁寧に教える。  
大人が何でもやってあげて、子どもたちは与えられることに慣れてしまっていないだろうか。  
子どもが嫌な思いをしないように先回りして声かけをする。  
トラブルの芽は事前にすべて摘んでおく。

トラブルそのものを起こさないようにすることも大切だが、子どもが自分で解決できるような支援をすることが大切ではないか。  
現在の学校教育の中には、目的を達成させるための“手段”を教えることが、目的化していることはないだろうか。

これまでの当たり前を見直し、「自分で考え、自分で決める」というプロセスを繰り返し続けることで、子どもの主体性、自己肯定感を高めることができるのではないか。  
このプロセスに大人が伴走支援することで、子どもに自分が支えられているという安心感が生まれ、他者を尊重する気持ちが芽生えるのではないか。

教育の本質を改めて問い直して、設定した最上位目標が

子どものwell-beingの実現  
～“私” “あなた” “今” “未来” 自分らしく輝く～

自分の幸せと同じように、周りのみんなも同じように幸せであってほしい、  
今だけでなく、未来に生きる人の幸せも見据えて

それが、この佐賀市学校教育ビジョンにおける根っこにあるものです。



佐賀市HP

本ビジョンは、現時点における佐賀市教育委員会としての考えや今後の取組の方向性を整理したものです。  
「手引き」や「提言」ではなく、「ビジョン」という形をとっているのは、これから先生方や子どもたちの双方のやり取りを通して、本ビジョンをより実効性のあるものにブラッシュアップしていきたいからです。  
今後、教育に関わる全ての人たちが、子どもたちの学びを支える一つのチームとして、本ビジョンを参考とした教育活動を主体的に実践・改善していくことを通して、子どものwell-beingの実現につなげていきたいと考えています。

# 佐賀市学校教育ビジョン

## 子どもが主役の学びに・・・

- ◎「教師が教育を提供する側、子どもは教育を受ける側」から「教師も子どもも、一緒に教育を創る側」へ
- ◎子ども一人ひとりの「こんな学校にしたい」「こんな学びにしたい」という思いを大切に



最上位目標

# 子どものwell-beingの実現

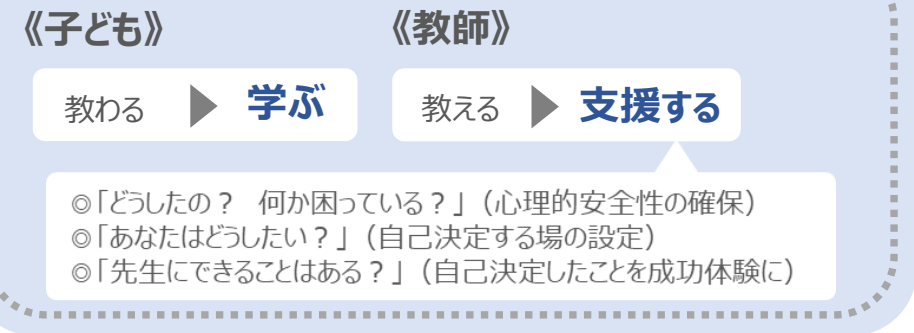
～“私も” “あなたも” “今も” “未来も” 自分らしく輝く～

## こんな力を身につけた子どもたちに！

- **自律**：自分で考え、自分で決めて、自分で動き出す力
- **尊重**：対立やジレンマを乗り越え、合意形成する力（自由の相互承認）
- **創造**：新しい価値を生み出す力

## 主体性の高まり

発達段階に応じて「自分で考え、自分で決める」割合が増えていく



自分で学びをつくる楽しさを実感できるように「課題を自ら見出し、考える」自己決定の場面を増やす段階



あいさつやお手伝い、読書、家庭学習、自主練習、栽培や飼育活動、創作活動など、子どもたちが**自分で考え、自分で決めて挑戦する**自己決定の経験を積み上げます。



学習課題や単元計画をもとに、子どもたちが学習の見通しをもち、**自分で設定した「問い」**を解決しながら、主体的に学習活動に取り組みます。

自分で決めて、他者と対話しながら、友達と試行錯誤・挑戦する場面を増やす段階



「友だちと、先生と、自分で、動画でオンラインで、AI教材で、教科書で、参考書で…」など、**自分に合う学び方やペースを選択して**行動します。



学級や学年の枠を超えて協働できる空間の中で学ぶことで、**子どもが自分に合う学びを選択し、新たな価値を創造**します。

多様な大人とともに学び、実社会・「ホンモノ」に触れ、「問い」を立て、課題解決に向けた探究的な学びを進める段階



体験学習や講演会を通じた多様な大人との出会いをきっかけに、実際の社会課題、**自分が取り組みたい目標、笑顔にしたい対象**に出会い、解決のためのプロジェクトを創造します。



アイデアの事業化を目指して取り組んだ探究活動（PBL）の成果を、地域や企業等に向けてプレゼンテーションし、**やりたいことを形にできる力**を身につけます。

教師が・・・紙・黒板でしていたことをデジタル化！

- 例
- ・デジタルAIドリルの活用
  - ・課題の配付、回収
  - ・写真、動画を見せる
  - ・考えを1人1台端末で書かせる

教師と子どもが・・・デジタルの強みを生かす！

- 例
- ・考えを共有し、思考を促す
  - ・データの集計、可視化
  - ・カメラ機能、ファイルの共同編集
  - ・子どもと活用場面を決める

子どもと教師が・・・活用場面を自己決定！

- 例
- ・対話ツールを自己決定する
  - ・相互評価し、フィードバックする
  - ・学習ログを積み重ね、振り返る
  - ・子どもが活用場面を決める

子どもが・・・デジタルを「アイテム」として活用！

- 例
- ・自身の音読やスピーキング、歌唱、運動等の確認に日常的に活用する
  - ・課題を設定し課題解決学習に取り組む
  - ・学習成果を実社会へ発信する

## 出番→役割→承認のスパイラル

(注)出番→役割→承認のスパイラルとは？

佐賀市では、これまで多くの学校で「サイクル」と表現し、取り組んできましたが、出番を“与える”、繰り返し挑戦“させる”ことが目的とならないよう、子どもの自己決定を支援し、主体性・当事者意識が高まっていくプロセスを「スパイラル」の形で整理しました。(右図参照)



- ①最上位目標の共有（子どもと）
- ②「出番」の設定（子どもと）
- ③「役割」の選択（子どもが）
- ④教師・家庭・地域からの支援
- ⑤成果と課題のフィードバック
- ⑥改善策の実施
- ⑦他者からの「承認」
- ⑧自己肯定感（有用感）の高まり
- ⑨次への意欲

## 全員が納得する学校行事をつくる



子どもたちが「なぜするのか」、「どうするか」を考えます。価値観の違いを対話で乗り越え、全員で共有した最上位目標で合意形成し、自分たちの手で、つくりあげていきます。

## 自分たちがよりよい学校をつくる



ルールメイキング（校則やルールの見直し）等の取組を通して、子どもたちが主体となって、教師・保護者など関係者との対話を重ね、納得解を作っていくプロセスを大切にします。